

いきいきライフ

ラジオ講座テキスト

毎週日曜日 6:30～7:00 放送
 毎週土曜日 17:15～17:45 再放送
 FBCラジオ 嶺北 864kHz / FM 94.6MHz
 嶺南 1557kHz / FM 93.6MHz
 パソコン・スマートフォンから radiko や FBC-i で聴くこともできます。



きのこの森

令和五年三月

もくじ

●三月五日放送（第四十八回）

特殊詐欺とアテンション・エコノミー

注意の誘導と詐欺……………2

神戸女子大学心理学部

教授 秋山 学

●三月十一日放送（第四十九回）

60歳から読んでほしいあの本、この本…4

出版ラモーション&イベントプロデューサー

山上昌彦

●三月十九日放送（第五十回）

今、福井に恋をする

〜見つめなおす私たちの故郷〜…6

福井県 県民活躍チャレンジ応援アドバイザー

寺井優介

●三月二十六日放送（第五十一回）

ローカル鉄道の未来と楽しみ方…8

旅の文筆家 蜂谷 あす美

●感想文のコーナー……………11

●文芸欄……………15

■三月五日放送(第四十八回)

特殊詐欺とアテンション・エコノミー 注意の誘導と詐欺

神戸女子大学心理学部 教授 秋山 学

詐欺や悪質商法は注意を引きつけるところから

家族や警察官、自治体や金融機関の職員になりすまし、言葉巧みに私たちの注意を架空の出来事に引き寄せ、お金をだまし取る特殊詐欺の被害は減っていません。特殊詐欺や悪質商法の特徴は、心理学から考えると私たちの注意を操ろうとするところにあります。私たちの注意を引きつけることによって、利益が生みだされる社会に生きることを理解しながら、特殊詐欺に騙されることは消費者の不注意ではないことを考えてみましょう。



注意の誘導は詐欺で使用される心理的手法で共通する特徴
特殊詐欺や悪質商法では、恐怖喚起コミュニケーション、時間的切迫、権威などの心理的な手法が用いられます。たとえば、オレオレ詐欺においては、不安をかき立てる犯人からのメッセージ、たとえば、「ご自身の預金口座が違法な取引に使われ
利用できない、息子が会社のお

金を着服してクビになるといったメッセージが届くので、私たちはそれに注意を傾けてしまいます。これは恐怖喚起コミュニケーションを悪用したものです。トラブルの対処のために残された時間は今日の午後だけといった時間が切迫した状況も偽りの対処に神経を集中させます。警察官を騙る犯人が偽りのトラブルへの対処方法を説明する際に、偽りの警察官の話に耳を傾けるのは当たり前です。これは権威を悪用しています。このように、オレオレ詐欺における騙す側のしかけは、すべて注意を引く試みと考えられます。還付金詐欺においても、滅多に起こらない国や自治体からの還付金という、誰もが驚き、その内容に注目してしまう事柄をテコにして私たちを騙そうと試みます。詐欺や悪質商法は、私たちの注意を虜にし、虚構の世界に私たちを引き込む手口です。すなわち、私たちの注意を引くことが犯人の利益に直結しているのが詐欺や悪質商法です。注意を引くことが利益に結びつくという仕組み自体は、詐欺や悪質商法だけでなく、スマートフォンなどに囲まれる私たちの暮らしにも埋め込まれています。

アテンション・エコノミー

消費者の注意を引くことを競い合う社会

インターネットが当たり前になり、多様な情報が消費者に押し寄せてくる社会において、身の回りの出来事や情報全てに等しく丁寧に注意を払うことは不可能です。このため、消費者の関心や注目を引くこと自体が希少で価値あるものになり、消費者の関心や注目、すなわち注意の度合いが経済的な価値をもたらすようになりました。これはアテ

ンション・エコノミー(注意経済)とも呼ばれ、近年、急速に発展しています。

商品を購入するには、一瞬であったとしても、その商品に対して注意を払う必要があります。すなわち消費者の注意を商品に引き寄せること自体は商業において不可欠です。このため、消費者の注意を引き寄せるための試み自体には問題はありません。アテンション・エコノミーが目されるのは、インターネットが普及し、コンピュータや携帯電話を用いて行う活動が生活の中に拡がる現代において、興味や関心を引こうとする試みに、常時、消費者が曝されるからです。

携帯電話を開けば、利用者の興味や関心に適うメールがたくさん届き、動画やソーシャルネットワークサービス(SNS)を見ようとすれば、次々と広告が表示されます。インターネットが普及する前から、テレビや新聞に広告は溢れていました。ただし、テレビや新聞では広告が掲載される場所やタイミングはある程度定まっており、広告を避けて記事や番組を見ることは比較的容易にできます。ところが、SNSなどを利用する場合は、広告を見ずにSNSを利用するのは難しいことがよくあります。最近では、広告であることを悟られないようにし、商品やサービスを利用した感想や経験談として、広告が行われることもあります。この試みは注意を引く手法として不適切であり、規制されるのが望ましいのですが、現実には私たちが広告とは気づかずに広告と接することもあります。

また、店舗やインターネットにおいて、消費者はどのような商品やサービスあるいは出来事に対して、いつ関心を

向けたのかに関して、事業者がインターネットを駆使して調べ、個々の消費者の興味・関心に沿うように、消費者に表示する情報を調律することが盛んに行われています。こうした試みを通して、消費者の注意を獲得しようとする事業者は争奪戦を繰り広げているのです。

特殊詐欺に注意を奪われることは不注意ではない

人間は、何にどれだけ注意を向けるのかを、全て意図的に制御することは出来ません。意図的に注意を制御できない部分があるからこそ、注意を引く試みが検討されアテンション・エコノミーという言葉が生まれるほど発展してきました。特殊詐欺は、消費者の注意を引く試みを悪用し、違法で非道徳的手段を用いて私たちの注意を強引に引き寄せ、虚構の世界に消費者を囲いこもつとします。それだけに特殊詐欺の様々な手口に注意を奪われることは騙された側の不注意と考えるべきではありません。むしろ、特殊詐欺に注意を操られそうな場合でも、注意を整えることができるよう、留守番電話などを積極的に活用するなどの工夫や困ったときに簡単に単純に信頼できる方と相談できる仕組みを整えていくことが大切です。

講師略歴……秋山 学(あきやま まなぶ)

昭和40年新潟市生まれ。同志社大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程後期中退。大阪教育大学、神戸学院大学を経て、現在、神戸女子大学心理学部教授。消費者の価格判断や商品選択、特殊詐欺被害を生み出す心理学的メカニズムに関する研究を行っている。

■三月十二日放送 (第四十九回)

60歳から読んでほしいあの本、この本

出版プロモーション&
イベントプロデューサー 山 上 昌 彦

●出版は時代を映す鏡です

出版は、時代を映す鏡です。出版物を見れば、その時々
のトレンド(時代の動向)がわかるばかりでなく、生きて
いくための重要な知識や気づきを得ることができます。

60歳以上の方にぜひ読んでいただきたい本はたくさんあ
りますが、今回は、人生100年時代を生き抜くために必
要な、「生き方・仕事」「健康」「コミュニケーション」の3
つのジャンルに絞って選んでみました。

●「生き方・仕事」に役立つ3冊です

『50歳からの人生が変わる痛快!「学び」戦略』

前川孝雄(PHPビジネス新書)

第二の職業人生で本当にやり
たい仕事を、「学び」を通じて
見つける方法を指南した書。
「学び直し」の具体的なアドバ
イスは超役に立ちます! 60歳



からでも遅くないので、ぜひ一読を!

『心に折り合いをつけてうまくいこうとやる習慣』

中村恒子・奥田弘美(すばる舎)

93歳と55歳の精神科医による対談集。中村先生の生き方
は「日々たんだん」。どこまでも自然な姿に、「こんなふう
に生きればいいんだ」という気づきがもたらえます。

『70歳からが老化の分かれ道』和田秀樹(詩想社新書)

70代の生き方が、その人の「老化の速さ」、「寿命」を決
める! 老いを遅らせる70代の生き方とは? 日々の生活習
慣、医療との関わり方、健康管理などの健康術。



●「健康」に生きるための3冊です

『アルツハイマー病 真実と終焉』D・フレデセン(ソシム)

初期のアルツハイマー病を9割改善させたドクターが教
える改善法。ほとんどの人が知らなかったアルツハイマー
と認知症の真実には目からウロコの連続です!

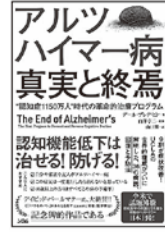
『脳の老化を止めたいければ歯を守りなさい!』

長谷川嘉哉(かんき出版)

歯周病、アルツハイマー病、糖尿病、脳血管疾患(脳卒
中)、心疾患、誤嚥性肺炎…これらの病気は全て歯が原因
のことがあります。認知症を防ぐために歯をキレイに!

『年をとったら食べなさい』佐々木淳(飛鳥新社)

65歳を超えたら「ぽっちゃり体型」が正解！食事や糖質制限などで体重を減らすと、危険な「フレイル(虚弱)」を招き、「肺炎」と「骨折」のリスクも高めます。



●「コミュニケーション」に必須の3冊です

『ほめコミュニケーション』原邦雄(ワン・パブリッシング) 自分の長所を見直し自己肯定感を高める「ほめマインド」の育て方や、「コミュニケーション」をスムーズにして全てを好転させるための「ほめコミュ」実践術などを紹介。

『人は話し方が9割』永松茂久(すばる舎)

□□□だけで120万部も売れた会話の本。1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツを教えます。話し方を変えるだけで、人間関係の悩みから解放されます。過去に会話で失敗したトラウマもあっさり消えます！

『職場のめんどくさい人から自分を守る心理学』

井上智介(日本能率協会マネジメントセンター)

職場の「面倒くさい人」たちをうまくかわすにはどうしたらいいのか？人間関係を楽にするポイントを解説。家庭や地域「コミュニティ」の人間関係にも役立ちます。



●60歳から大切な3つのポイント

- ①生き方・仕事：よばよばとした状態で長い老いの期間を過ごさないためにも、仕事への取り組みを新たにしましょう。また、精神的にも健康を保てるよう努力しましょう。
- ②健康：60歳以降の最大の関心事は健康です。健康寿命を少しでも延ばすには、「医療」「運動」「食事」を大切にすることが重要です。「医療」に関しては、良質な知識と情報を沢山入れる必要があります。「運動」に関しては筋肉を鍛えましょう。転倒や骨折を防げれば、健康でいられます。
- ③「コミュニケーション」：会社中心の生活をしてきた人も、60歳からは地域の「コミュニティ」での活動にも重点をおきましよう。その際に大切なことは、「コミュニケーション術」です。積極的に人と関わっていきましょう。

講師略歴……山上 昌彦(やまかみ まさひこ)

出版プロモーション&イベントプロデューサー。早稲田大学第一文学部卒業後、出版社の講談社に入社。書籍宣伝部、PENTHOUSES編集部、DAYS JAPAN編集部、総合編集編集部(美術書)、週刊現代編集部、TOKYO1週間編集部、KANSAI1週間編集部(編集長)、Hot-Dog PRESS編集部(編集長)など。講談社在籍中に、日本テレビや関西テレビなど、TV・ラジオ各局でレギュラー出演を務めたことも。2014年、独立。

■三月十九日放送 (第五十回)

今、福井に恋をする 〜見つめなおす私たちの故郷〜

福井県 県民活躍課
チャレンジ応援ディレクター 寺井 優 介

【県庁にチャレンジ応援ディレクター設置】

令和3年4月から福井県庁に「チャレンジ応援ディレクター(COD)」という新たなポジションが設置されました。そのチャレンジ応援ディレクターに任命されたのが私です。知事から与えられた役割は「県内の地域活動を行う若者のチャレンジ応援」と「県内のワクワクドキドキを発信」すること。県民の皆さんのチャレンジを応援し、福井の魅力を発信するためには、まずは皆さんの活動を知ることが重要と考え、最初の3か月間はとにかく人に会い、就任から3か月で100人以上の人に取材をし、その取材の中で、県内で活躍している皆さんがどのような活動を行い、どのような考えを持ってしているのかを聞いていきました。そこで改めて感じたことは、福井にはすごい活動、面白い活動、そして熱い「想い」をもって活動している人が数多くいるということでした。



【外に出てみないと気付けなかったこと】

私自身は高校卒業まで、敦賀市で生まれ育ちましたが、その当時は自分のまちに興味を持つことが出来ず、福井での就職というイメージも湧かなかったため、東京の大学に進学しました。しかし、東京で生活して感じたことは「福井は良いまちだったんだな」ということでした。美味しい空気、美しい景色、人の温かさ。それは、外に出てみたらこそ気付けたことだったのではないかと思います。しかし、高校生の時に、自分の近くに福井の良さを情報発信する人がたくさんいたら、福井に住んでいる時に福井の良さに気付けたのではないかも知感じたのです。

【福井の素晴らしい発信】

福井県の良さをアピールしたいと思い、私は福井県庁に入庁しました。運と縁に恵まれ、20代後半から30代前半はブランド営業課で、福井県の魅力を情報発信する仕事をさせて頂きました。福井の美味しい食(越前がにや越前おろしそば)や美しい景色(東尋坊やレインボーライン)、さらに全国的に珍しい「福井県立恐竜博物館」を中心にPRしていました。

しかし、チャレンジ応援ディレクターの活動を始めて、改めて福井の良さは「人にあると感じています。『福井人は積極的に前に出てアピールするというタイプではないかもしれませんが、心の奥にはとても熱い想いを持っており、

話し始めると情熱的になる人が多く、そしてなにより、福井県のこと大好きな人が多いと感じています。

【若者のチャレンジ応援】

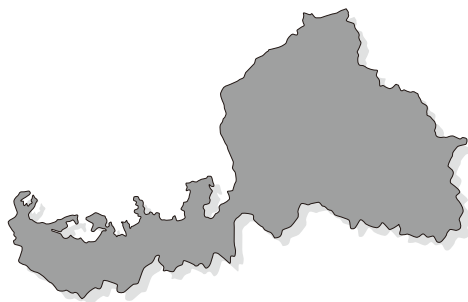
なぜ、いま、若者のチャレンジ応援が必要なのか。現在、若者の県外流出が進んでいます。県内高校卒業者の大学への進学者のうち、約70%が県外へ進学し、県外進学者のうち福井へのUターン率は約30%です。一度、都会へ出てしまった若者の多くは、福井に戻らず、都会で就職をします。私は、福井出身の若者たちに、「福井で働く」という選択肢を持ってもらいたいです。そのためには、小学生、中学生、高校生の頃から福井の魅力的な部分を伝え続けることが重要ではないでしょうか。

その中の一つが「福井県全体が若者のチャレンジを応援する文化をつくること」だと思っています。自分のチャレンジを多くの人が応援してくれて、自分自身がいきいきと生活することができるということが分れば、福井での生活も検討するのではないのでしょうか。

そのためには、経験と知識がある年長者の皆さんが、若者を温かく見守り、優しくアドバイスをし、彼らのチャレンジを応援するということがとても大切になります。

もちろん、チャレンジを応援するということは、若者だけでなく、同世代同士でも行っていくことも素晴らしいものです。「応援」はする方も、される方も気持ちのいいも

のですよね。ぜひ、身の回りの人のチャレンジ、若者のチャレンジを応援してください。そしていずれ、「福井県はチャレンジを応援する県だね」といわれるような県にしていきたいと思っています。僕自身、福井県が大好きです。今の若者たちにも「福井が好きだ」と言えるような故郷になるよう、ぜひ皆さんにも「若者のチャレンジ応援」に協力頂けると嬉しく思います。



講師略歴……寺井 優介（てらい ゆうすけ）

福井県敦賀市生まれ。福井県で地域活動を行う若者の応援と、福井県の「フクワフドキドキ」を情報発信中！若者（フレイヤー）同士と県庁各課、市町を繋ぐコーディネートを行い、メディアを通じて福井県の面白い人、場所、コトを発信している。

■三月二十六日放送(第五十二回)

ローカル鉄道の未来と楽しみ方

旅の文筆家 蜂谷 あす美

鉄道旅の楽しさ

皆さんは、鉄道旅の楽しさと言われると、何が思い浮かびますか？以下では、私が感じている楽しさを5つご紹介いたします。

一つ目は「車内で自由に過ごせる」です。乗車中、必ずしも景色を見続けていなくてもよく、飽きたら寝ても、読書に耽っても、好きな音楽を聴いても許されます。車内には基本的にトイレ設備があるので、飲み食いだって自由ができます。

二つ目は、「地元の人と触れ合える」です。鉄道は、旅行者である自分以外に、地元の人たちもたくさん利用しています。かつて秋田県と青森県を結ぶ五能線の普通列車で旅したときのこと。手持無沙汰だった(と推察される)車掌が、見るからによそ者の私に「どこから来たのか」「どこに行くのか」と



話しかけてくれました。さらに、途中駅から乗車してきた地元のおばあちゃんを「あの人、今から不老心死温泉に行くらしいから連れていってもらうといいよ」と私に紹介、温泉最寄り駅で一緒に下車しました。

三つ目は、「移動しているだけなのに『旅』です。鉄道旅行では、観光地を巡らなくても、名物を食べなくても構いません。「移動」という大義名分が自動的に成り立っているためです。ただただ時間の流れに身をゆだねて過ごすのは、日常生活ではなかなかできない贅沢な時間といえるのではないのでしょうか。

四つ目は、「バリエーション豊富」です。普通列車を乗り続ける旅や、特急列車や新幹線で大きく移動する旅、トロッコ列車やレストラン列車といった観光客向けの列車に乗る旅のなかから、自分にとって楽しくて快適な旅が選べます。

最後の五つ目は、「点ではない、線の旅」です。街と街を結ぶようにして走る列車、都市部から田舎へと、景色は濃淡を少しずつ変えていきます。観光地や都市部といった点だけでなく、その間にある、各地の家並や暮らしを、列車は平等に映し出してくれます。特に日暮れ後の列車から見える、家の明かりや街の明かりは格別です。

福井のローカル鉄道の魅力



越美北線

福井駅～九頭竜湖駅を結ぶ全長55・1キロの路線で、1972年12月に全線開業しました。どこまでも広がる田園地帯や、足羽川を橋で何度もわたっていく豪快な景色、そして山にすっぽりと囲まれた盆地の景色が楽しめます。名前は、福井(越前)と岐阜(美濃)を結ぶことを目標としていた「越美線」の北側に当たること由来します。



小浜線

敦賀駅～東舞鶴駅を結ぶ全長84・3キロの路線で、1922年12月に全線開業しました。県内の鉄道で唯一、海沿いを走る路線です。景色には意外に変化が多く、山から俯瞰的に市街地、海を見下ろす絶景に始まり、三方五湖、そして若狭湾沿い、若狭富士と、通しで乗ると、さまざまなお楽しみがあります。



福井鉄道

越前武生駅～田原町駅を結ぶ全長20・9kmの路線です。また、福井城址大名町停留所から福井駅まで600mの「ヒゲ線」も出ています。1924年に開業した「福武電気鉄道」がその起りです。越前武生から赤十字前までかつうの鉄道(専用軌道)、その先は路面電車(併用軌道)になります。



えちぜん鉄道

福井駅を起点として、勝山に向かう勝山永平寺線と、三国に向かう三国芦原線の2路線を有している第三セクターです。無人駅から乗降する人へのきっぷの販売、観光案内、それに乗降のお手伝いをする職種「アテンダント」を導入し、全国的に注目を集めています。2016年からは、福井鉄道とえちぜん鉄道の間で相互直通運転を行っています。



ハピラインふくい

2024年春に新たに誕生する鉄道です。北陸新幹線敦賀開業に伴い、北陸本線大聖寺駅～福井駅が同線に受け継がれます。

鉄道の楽しみ方

ぜひ、福井の方には、まず「福井の鉄道」を楽しんでもらいたいです。特に、将来に公共交通を残すという観点からは、何よりも「乗る」という楽しみ方を選んでいただきたいと思います。

各路線は観光地への二次交通としての役割を担っており、越美北線なら福井から、一乗合朝倉氏遺跡へ、えちぜん鉄道なら終点の勝山駅から、恐竜博物館にアクセスできます。さらに、小浜線では、沿線で積極的にレンタサイクルが導入されていますので、「列車と観光」「列車とレンタ

サイクル」のように、鉄道にもう一つの要素を掛け合わせるだけでも充実の時間が過ごせるはずですよ。

全国のおススメ路線



根室本線

北海道の道東を走る路線。釧路から根室にかけては、湿原地帯を走り、最果ての景色、シカなどの野生動物が見られます。



五能線

青森、秋田エリアを日本海に沿って走る路線です。沿線には白神山など観光地もあり、観光列車「リゾートしらかみ」も運行しています。



紀勢本線

三重県、和歌山県の紀伊半島を走る路線です。普段見慣れている日本海とは異なる、本当に穏やかできらきらとした海が見どころ。沿線にはハイキングの楽しめる熊野古道もあります。

ぜひ、県内県外問わず、皆さん、鉄道旅行に出かけてみてください。



越美北線



小浜線

講師略歴……蜂谷 あす美（はちや あすみ）

1988年福井県福井市出身。慶應義塾大学商学部卒業後、出版社勤務を経て、現在に至る。2015年1月にJR全線完乗。鉄道と旅を中心としたエッセイ、紀行文などを数多く執筆。著書に「女性のための鉄道旅入門」、「もっとお得にきっぷを買おう!」50（いずれも天夢人）ほか。福井新聞で「乗り鉄・蜂谷のいつもリユックに時刻表」、雑誌「鉄道ジャーナル」で「わたしの読書日記」など連載多数。

感想文のコーナー

このコーナーは、受講生の皆様から寄せられた感想文を紹介いたします。紙面の都合上、すべての感想文を紹介できないことをご容赦ください。

■一月八日放送 (第四十回)

買い物難民支援の取り組み

小西 清光 先生の感想文より

▼杉下 信夫 (八十八番)

福祉車両があったのが幸いでした。高齢者同士の助け合いで、ボランティアの運転手にとっても張り合いになります。すばらしい取り組みです。どの地域にも抱えている問題がなにかしらするはずで、それを行政の補助金などをうまく活用して、住民同士の共助で解決できるという実例を学ばせていただきました。

▼木谷 直子 (百八十四番)

小西先生が教職員退職後、民生委員・児童委員等をされて地域の現状のありのままを把握されました。課題を乗り越えるため行政に働きかけ、地域住民同士による支えあい活動「明倫買い物クラブ」を立ち上げられたことは、高齢者にとつてどんなに心強かったことか計り知れません。驚いたことは利用者よりボランティアの数が多いこと。高齢者一人一人が地域の人に大切にされ安全に生かされていると思います。

私はせめて自分で荷物を持ち車の乗り降りを自分でできる体力を心がけたいと思いました。先生の思いの詰まった

会がずっと続きますよう心から応援しています。

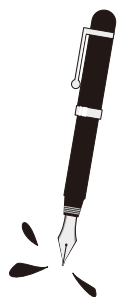
▼竹内 多美子 (四十番)

現在は自分で自由に買い物出来ていますが、運転免許を返納したら買い物難民になるであろうと心痛めております。町内にスーパーの移動店舗が来てくれたり、お買い物バスに便乗したりすれば何とかかなりそうですが、家族の協力が得られず孤独になったり、体力が衰えたりしてくるとその先は予想出来ません。

買い物難民を救うための支援はどのように取り組んだのか、段階を踏んで説明していただき、実現されていく若狭町明倫地区の経過が手に取るように分かり、大変参考になりました。

「明倫買い物クラブ」は、3年の準備期間を経て、平成24年12月より、利用者15名、運転ボランティア17名、利用料100円の負担で活動開始されました。運転ボランティアの方々には利用者に喜ばれ、やりがいを感じられ、大変良い仕組みだと思います。

しかし、内情は厳しく、高齢化が進みボランティアの成り手(75歳までの方)が不足、今後につなげるボランティアの発掘が課題となっているとのこと。さらなる支えがなければ継続も危ぶまれます。これからは地域の方々の顔の見える協力体制が必要になるだろうと思います。



■一月十五日放送 (第四十一回)

ヤングケアラーの現状と背景

高垣内 文也 先生の感想文より

▼齊藤 智恵子 (二十五番)

私は若い時から丹生の中山間地に住んでおりますが、近所を見渡してもヤングケアラーの方は今まではおりませんでした。認知症の人、病弱な人はいますが、近所、親戚行政の方の支援を得て無事毎日を過ごしています。

隣組意識はだんだん希薄になってきました。それでも何かある時は向こう三軒両隣の意識はまだ残っています。

祖父母、両親の面倒を見なければならなくなった若者が、自分の将来の夢を諦めて介護に専念するとか、毎日の生活が束縛されることは当然生じてくることです。これまでは家族の力や地域の協力を得ることが出来ましたが、核家族や一人親家族が多くなった現在は子供世帯のケア負担が多くなりました。ヤングケアラーの方の些細な行動変容に注目し言葉をかけて話を聞くことが大切とおっしゃいました。ヤングケアラーの方の性格もそれぞれだと思いますが、その人に寄り添って長期的にサポートしていくことが大事ですね。

▼谷川 好枝 (四番)

私が子供の頃は、今で言う「ヤングケアラー」がたくさんいました。戦争と地震で親を亡くし、多い兄弟の世話をしながら食事を作っていた男の子は、遠足にも修学旅行に

も行かず、中学校には来ず仕事でした。また、馬の世話をするため必ず遅刻してくる子供など。

今はそのような人は私の周りには居ませんが、目をこらして見ると「ヤングケアラー」は身近にいるのかもしれない。優しい言葉掛けをするだけでもそうした子の心のケアになるのでしょうか。目まぐるしく変わる世の中、人類皆兄弟、明るく生きていきたい。

▼高石 まゆみ (百六十五番)

最近、ヤングケアラーのドキュメント番組が増えてきたように思います。ある番組の街頭インタビューでは、「ヤングケアラー」という言葉はあまり知られていないようでした。

しかし、各県や市にて次々とヤングケアラー支援条例が施行されているということは、大きな社会問題になったという証拠でもあります。先生もヤングケアラーの体験者とのこと、お話をお聴きしていても一段とリアルさが伝わってきました。

小学生のヤングケアラーの人数は15人に1人とのことに驚きましたが、私が大好きな宮崎駿監督の「となりのトトロ」のさつきちゃんがまさにヤングケアラーだというお話には思わず納得しました。「近所の助けがあつてこそ、さつきちゃんも頑張っていたのでしょう。近所付き合いが少なく核家族の昨今では、頼ろうとすることが出来ないのに慣れっこになり諦めてしまつとは、悲しい問題です。近所付き合いもあまり干渉をしないのが基本のようになってき

ましたが、度を越した干渉でなければ周囲の大人たちの協力によってヤングケアラーの支援をすることが出来るような気がしました。

■一月二十二日放送 (第四十二回)

ジェンダーの視点で社会をみる

—教育の中のジェンダー不平等—

織田 暁子 先生の感想文より

▼福岡 隆夫 (二百二十八番)

高齢者に出来る人権啓発活動の中で、最も意識改革が難しい問題ではなかるうか。何が差別になるのが、身に沁みついた生活、所作、仕事など考えると大変である。

2015年秋に国連のSDGs開発目標が採択され、その第5に「ジェンダー平等を実現しよう」と盛り込まれた。調査で我が国日本は加盟国の中で低水準にあると評価されているし、事実そのなのだと言料などで知った。

私は今ジェンダー偏見とは何か具体的に言えない。これからいろんな場面で留意と配慮のための気づきが出るようにしなければと思う。教育の「かくれたカリキュラム」について文科省等から出されていて、意識改善が進められている。人間の基本的人権として、男らしく女らしくではなく、「自分らしく」社会的役割を果たせるようにしていきたい。

▼藤沢 静子 (百六十四番)

「ジェンダー」という言葉は何となく聞いていましたが、

今日ほど真剣にジェンダーの意味を考えたことは無かったです。何となく「男女平等」のことだろう位で終わっていましたが、無意識に性別役割を押しつけて、子供たちを育ててきたのだと思い知りました。自分に至っても、男らしく、女らしさが当たり前の価値観で生きてきたようです。「無意識に不当にあつかうのは差別である」の言葉にはドキッとしました。

世界でのジェンダー公平性指数を調べてみたら、スウェーデン、オランダが上位で日本は14位だそうです。属性によって不当な扱いを受けることは差別だとも教えてくださいました。

最近「ジェンダー平等」問題はいろんな所で取り上げられるようになりました。偏見による不利益を被る人が無くなるのが望ましい社会だと情報発信することが、益々必要だと思いました。

▼山田 寿美 (七十二番)

かつて趣味の会に入っていた時、代表の男先生から理事長になれと指名を受けた。40歳代だったので職場でも中堅として責任ある仕事もあったし、家庭も育児、家事など多忙であった。趣味の会なのでお世話も充分とは言えない事は自分では分かっていた。

ある時、その男先生が他のメンバーに「やっぱり女はあかのー」と言われているのを偶然聞いてしまいショックだった。今思えば、社会通念として「女」と見るのではなく「個人」として見る価値観が不充分だったのでしよう。

現在は、教育、職場、進学など日常生活の中でジェンダ

「平等の考えが浸透されつつある。私は高齢になった今、その考えは先ずお互いの思いやりとして家庭の中から実行されるべきだと痛切に思っている。」

■一月二十九日放送 (第四十三回)

中高年のハラスメント

國久 弘敏 先生の感想文より

▼西尾 桂子 (百七十七番)

「ハラスメント」とは、「いじめ、嫌がらせ」のこと。自分の思いとは関係なく、相手が尊厳を傷つけられたり脅威を感じたりして不快に感じたら、それは「ハラスメント」であるとのこと。

驚くのはハラスメントの多さである。「セクハラ、パワハラ」等々多くの「〇〇ハラ」がテキストには並んでいる。中高年は若い人に比べて、自分のハラスメント言動の意識が薄いとのこと。分かるような気がする。自分の年齢ならこれくらい言っても分かってもらえるだろうと人との距離感を見誤るのである。

解決策として自分とは異なるものを受け入れていくことが大事 (多様性を認める) と先生は言われる。多くの活動に参加し、その中で自分の「立ち位置」に気づき、人との心の距離感を知ることにも。

今日の講座の中で一番納得したのはこの「立ち位置」。多くの活動に参加しているわけではないけれど調べてみた言葉の一つとなった。

▼森忠 陽子 (二百三十一番)

いろいろなハラスメントがあることがわかりました。私達が育った時代、職場にもハラスメントはありました。認識されていなかったから我慢していたと思います。だから中高年でハラスメントを認識されている人は少ないように思います。ハラスメントと感じる時は他者との心の距離が遠い時。さまざま人と交流しコミュニケーションをとると他者との心の距離が少しでもわかってくるそうなのでハラスメント防止に努めたいです。

▼中山 慶子 (二百六番)

中高年は、厳しい受験戦争や家庭を顧みず苦勞した社会貢献の経験があり、成功した自信とプライドがあります。それはそれで認められるべきことでしょうが、時には「大きな勘違い」をしてしまいます。自分の言っている事は「正しい」「みんな思っている」と。

小さな子供を連れなお母さんが、スーパーの総菜売り場でポテトサラダを手にしたら、「母親ならポテトサラダくらい作らんか」と見知らぬ高齢男性に言われた所を見た女性からの投稿「ポテトサラダ問題」はネットで話題になりました。この男性、ポテトサラダを自分で作った事はなく、どれだけ手間と時間がかかる献立なのか知らないのでしょうか。退職後の男性が地域活動で、自分の過去の地位をひけらかし、逆に孤立してしまったという話を聞きました。自分たちのために趣味の時間を作るのは大切であり素敵な事だと思えます。多くの方と交流して様々な価値観がある事を知り、人生豊かになるといいです。

文芸欄

俳句

子の夢を聞き出す母や風光る
もつ少し気楽に生きよと犬吠への

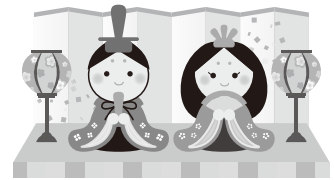
前川 康子 (二十四番)

風光る標的は君ドッチボール
肘鉄は挨拶ポーズ村のどか

高石 まゆみ (百六十五番)

力まづに生きていくコツしゃぼん玉
春風や言葉までもやわらかく

中山 慶子 (二百六番)



短歌

世の中は金がなければ食べられず
生きてはゆけぬ金をおそろし
昼に餅夕食にそばおいしくて

満たされている二月一日

杉下 信夫 (八十八番)

川柳

雪掻けば「ボクてつだう…」と向かいの児
重き綱刀んで一突き除夜の鐘
朝刊脇屋根に七星凍みる息

谷川 好枝 (四番)

民法の家族法親族編と相続編
エンディングノートに親族編を挟み込む
四月より施行改正育児介護休業法

山下 博 (七十四番)

ラジオ講座「いきいきライフ」

公開講座のご案内

日時：令和5年3月11日(土) 14:00～15:30

会場：FBC ホール (福井市大和田 2-510 福井放送内)

参加費：無料 (定員 100 名)

「心ゆたかに生きるコツ」

講師：川柳作家 大西 泰世氏

〈講師プロフィール〉

NHKラジオ第1「ラジオ深夜便～ぼやき川柳」、「かんさい土曜ほっとタイム～ぼやき川柳アワー」に出演中。選者歴25年。句集「こいびとになってくださいますか」で中新田俳句大賞を受賞。NHK文化センター講師。



申込方法

下記の必要事項をご記入いただき、令和5年3月3日(金)までに郵送、FAX 等でお申し込みください。

ふりがな		年 齢	歳
氏 名		電話番号	— —
住 所	〒		

※この申込書で取得した個人情報は、お申込み内容の確認、今後の講座案内のためにのみ利用させていただきます。

【お問合せ・申込先】

福井県すこやか長寿センター

〒910-8516 福井市光陽 2-3-22 福井県社会福祉協議会 地域福祉課内

TEL:0776-24-2433 FAX:0776-24-0041

Eメール:sukoyaka@f-shakyo.or.jp